

## 第29回電波功績賞表彰式を開催

2018年6月27日(水)、第8回定時総会に引き続き、第29回電波功績賞表彰式が開催されました。まず、坂井総務副大臣からご祝辞を頂戴し、総務大臣表彰の受賞者の方々に表彰状が授与されました。ついで、当会の東原会長から一般社団法人電波産業会会長表彰の受賞者の方々に表彰状が贈呈されました。

表彰状受領後、受賞者を代表して鴨田様(日本放送協会)よりご挨拶がありました。



### 電波功績賞表彰式終了後の記念撮影

後列

中村様 芳賀様 大栢様 山中様 杉山様 近藤様 岩下様 樫尾様 竹下様 原田様 加藤様 大堂様

前列

富永総務審議官 鴨田様 羽鳥委員長 坂井総務副大臣 東原会長 二方様 渡辺基盤局長

## 1 総務大臣表彰

### (1) 「4K・8K 放送番組素材用 FPU の開発」

日本放送協会 4K・8K 用 FPU 研究開発グループ

代表 鴨田 浩和 殿（日本放送協会 放送技術研究所 上級研究員）

4K・8K 放送を推進するために、マイクロ波帯およびミリ波帯を利用する放送番組素材用無線伝送装置（FPU）の開発を進め、直交 2 偏波を用いる偏波 MIMO 等により従来の帯域幅を維持しつつ大容量化を実現するとともに、ARIB 標準規格の策定にも貢献するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

### (2) 「IoT 通信機器の省電力技術 eDRX の実用化」

株式会社 NTT ドコモ 省電力技術 eDRX 実用化チーム

代表 二方 敏之 殿（株式会社 NTT ドコモ 移動機開発部 部長）

IoT 通信機器の消費電力を低減するために、コアネットワークと無線ネットワークの連携により間欠送受信の間隔を大幅に延伸する eDRX\*技術の実用化と標準化を進め、2018 年 3 月までに全国の LTE エリアでサービス提供を開始すると共に、低消費電力 UIM を開発し、合わせて電池寿命を 10 倍に延ばすなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

\* eDRX : extended Discontinuous Reception

## 2 一般社団法人電波産業会会長表彰

### (1) 「400MHz 帯災害対策用可搬型無線システムの実用化」

日本電信電話株式会社

代表 中村 宏之 殿 (日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所  
無線エントランスプロジェクト プロジェクトマネージャー)

東日本電信電話株式会社

代表 芳賀 一夫 殿 (東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部  
サービス運営部 災害対策室 室長)

西日本電信電話株式会社

代表 大栢 智晴 殿 (西日本電信電話株式会社 設備本部  
サービスマネジメント部 災害対策室 室長)

400MHz 帯災害対策用可搬型無線システムをデジタル化により高度化することで、音声通話に加えてデータ伝送にも活用できるようにするとともに、公共業務用無線設備との周波数共用を可能とし、広域災害に備えて広範囲に渡って同時に多くの無線端末局を収容可能として全国配備を進めることで、電波の有効利用に大きく貢献した。

### (2) 「便座用マイクロ波センサの実用化」

TOTO 株式会社

代表 山中 章己 殿 (TOTO 株式会社 エレクトロニクス技術本部  
電子機器開発第二部 技術主幹)

デザインと機能の融合を目指し便座の中に隠蔽して設置できる人体の移動を検出するセンサとして、ARIB 標準に準拠した 24GHz 帯の電波を使用するマイクロ波センサに着目し、隠蔽設置しても安定した S/N 性能が保て、高温高湿環境下でも安定して使用でき、トイレブースへの入退室、着座・離座を確実に検出できるマイクロ波センサを実用化し、電波の有効利用に大きく貢献した。

### (3) 「複数ベンダの通信ソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術 (NFV) の実用化」

株式会社 NTT ドコモ ネットワーク仮想化基盤開発チーム

代表 杉山 一雄 殿 (株式会社 NTT ドコモ ネットワーク開発部 部長)

通信キャリアネットワークに対してネットワーク仮想化技術 (NFV\*) を適用し、ハードウェアの効率的な利用と柔軟な運用を最大限実現するために、世界で初めて複数ベンダのソフトウェアとハードウェアを組み合わせたオープンな環境を実現し実用化するとともに、国際標準化にも積極的に貢献するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

\* NFV : Network Functions Virtualisation

(4) 「有線音声 IP 伝送方式による FM 同期放送システムの実用化」

株式会社中国放送

代表 近藤 寿志 殿 (株式会社中国放送 技術局 専任局長)

日本通信機株式会社

代表 岩下 裕孝 殿 (日本通信機株式会社 執行役員 技術部主管部長)

株式会社 NHK アイテック

代表 樫尾 朋宏 殿 (株式会社 NHK アイテック 高松事業所 所長)

FM 補完放送を実施するにあたり、隣接する基幹局、中継局から同一周波数で同期した電波を  
発射する FM-SFN\*を IP 伝送方式の有線回線で実現するために、IP ネットワーク上の遅延時間変  
動や揺らぎを抑圧する技術を実用化し、FM コミュニティ放送を始め FM 補完局に採用されるなど、  
電波の有効利用に大きく貢献した。

\* SFN : Single Frequency Network

(5) 「周波数利用効率改善とキャリアアグリゲーションによる LTE 方式の日本最速上りスループットの  
の実用化」

KDDI 株式会社 LTE 方式の上り通信技術の高度化検討チーム

代表 竹下 紘 殿 (KDDI 株式会社 技術統括本部 技術企画本部 技術企画部  
システム戦略グループ 課長補佐)

2GHz 帯における LTE システムの運用にあたり、隣接システムへの有害干渉を回避しつつ、上  
りスループットを改善するため、電力低減制御技術の開発と異周波数間キャリアアグリゲーション  
技術の導入により、LTE 方式の移動機送信における日本最速上りスループットを実用化すると  
ともに、国際標準化にも貢献するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(6) 「公共ブロードバンド移動通信システムの開発と実用化」

国立大学法人 京都大学

代表 原田 博司 殿 (国立大学法人 京都大学 大学院 情報学研究科 教授)

株式会社日立国際電気

代表 加藤 数衛 殿 (株式会社日立国際電気 ソリューション統括本部  
ソリューション本部 技術総括)

国立研究開発法人 情報通信研究機構

代表 大堂 雅之 殿 (国立研究開発法人 情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク  
総合研究センター ワイヤレスシステム研究室 主任研究員)

VHF 帯地上アナログテレビジョン放送の空き周波数帯を活用した公共ブロードバンド移動通  
信システムの研究開発を進め、VHF 帯特有の伝搬特性に対応可能で移動時にもリアルタイム映像  
伝送可能な無線通信技術を開発するとともに、ARIB 標準 (STD-T103) および IEEE 標準 (802.16n)  
の規格化にも積極的に貢献し、システムを実用化するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。



表彰式における  
東原会長のご挨拶



表彰式における  
坂井総務副大臣のご祝辞



表彰式における  
羽鳥選考委員長のご挨拶



受賞者を代表して  
鴨田 浩和様のご挨拶